

一般質問

佐渡再生に今、 何が必要なのか No.2



祝 優雄 議員

本土との格差是正について

質問 9月1日より実施されている、佐渡汽船の本土発の優遇策を実施するのであれば、現在の島発2等往復30%割引を50%割引に戻させることが、この事業に取り組む最低限の条件と考えている。先の議会でも国道に指定されている佐渡航路は原則無料にすべきと主張したが、まず島発2等往復50%割引を復活させなければならぬ。復活させるには2億円あれば対応できる。

市長 島発2等往復50%割引復活に、当初、佐渡汽船は1億円程度と言っていたが、

計算させたら約1億2、300万円と私どもの試算では出ている。ただ利用人数が変

わっている。ただ利用人数が変わっているから相談したい。

質問 50%に復活させる財源は、離島振興法による航路

の補助事業を活用すれば、8割は交付税算入で返ってくる。市の負担は2割で済むが。

市長 交付税措置ができるのか、財政課長に答弁させる。

財政課長 離島航路の関係については、特別交付税の算定のうちに入っている。国の要望していきたいと考えている。

質問 本筋に踏み込んだ提

案をする。佐渡の国道350号線は県が管理する一般国道である。おそらく国は県全体の国道

延長距離に対し、管理と維持経費を県に措置しているものと思われる。両津、新潟間の約

64キロ、小木、直江津間約78キロ、この海上距離約142キロ分が県内の国道延長距離に含ま

れているのか、まず調査してもらいたい。含まれているとしたら、県から配分を受けるのは当然

だ。もし県も見落としているとしたら、県と歩調を合わせて国から獲得し、佐渡航路の利用料金に還元しなければならぬ。調査してもらえないか。

市長 今までそのような発

想をしてこなかった。今後は、認させてもらいたい。

質問 事前に調査を依頼しているが、全国に本土と離島を

橋でつなぎ、離島でなくなった島もある。離島と離島を橋でつないだ島もある。その数を県別に報告してもらいたい。

企画情報課長 離島センターで捉えている橋の数は75橋だ。

県別では、長崎県が22橋、熊本県が18橋、広島県が14橋、山口県が5橋だ。県と県を結

ぶ橋は、長崎、佐賀が2橋、広島、愛媛が1橋、その他石川、和歌山、島根、高知など75橋ある。

質問 調べて驚いたが、75

橋もある。面積が一番広く、人口が一番多い佐渡に、トンネルや橋が無理なのか。物理的に無理なら、制度として対応すべきだ。この対応はまさしく政治の責任だ。市長は

いかが考えるか。

市長 今まで全く出来ない

ものだと考えてきた。今後は、橋を架ける費用をよこせという話になるのかどうかは別に、今までは違った発想の転換で佐渡航路の運賃を安くする、あるいは補助を確保する方向で対応していきたい。

質問 本土との格差是正の

象徴として取り上げるが、島内の石油製品やガソリンの値段が、本土と比べて高すぎる。北海道で1リットル130円に対し、佐渡では150円に近い。石油製品は佐渡汽船で運ぶのではなく、専用タンカーで運ばれており、島内の極端な高値安定は合点がいかない。島内の住民生活、経済に過度の悪影響を及ぼしており、市長は至急、業界と話し合いを持つべきだ。

市長 ガソリン問題だけではないが、ガソリンが象徴的に扱われており、このように価格が上がると全てにかかわる問題になっているので検討する。